明治三十七八年海戰史

第一部(第一期)

第二篇　旅順口及ヒ仁川ノ敵艦隊ニ對スル作戰

第八章　旅順口第六次攻擊及ヒ第二回閉塞

第一節　第二回閉塞準備

第一目　閉塞船ノ艤裝

聯合艦隊ハ、二月二十四日五隻ノ特別運送船ヲ以テ、一度旅順口ノ閉塞ヲ決行シ、敵ニ幾分ノ障碍ヲ與ヘタリト雖モ、其ノ効果未タ完全ナラス、敵ハ尙依然トシテ港口出入ノ自由ヲ有セシカハ、聯合艦隊司令長官海軍中將東鄕平八郎ハ、再港口ヲ閉塞セント決シ、二月二十八日八口浦ニ歸著スルヤ、直ニ軍令部次長海軍中將伊集院五郎ニ電報シテ、港口閉塞用トシテ更ニ排水量二千噸內外、速力十海里以上ノ特別運送船四隻ヲ至急準備シ、且此等運送船ニハ約一年間引揚ヲ不可能ナラシメンカ爲メ、船艙ニハ石及ヒ「セメント」ヲ混

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

載シ、尚是カ爆發ニ要スル十六斤綿火藥罐三十二個、小裝鎧電纜千五百米突、十電器電池八個、試驗用電池四個ヲ附屬セシコトヲ請求セリ、是ニ於テ海軍軍令部長海軍大將子爵伊東祐亨ハ、海軍運送船福井丸、彌彦丸、米山丸及ヒ千代丸ノ四隻ヲ閉塞ニ供用スルコトニ決シ、吳、佐世保兩鎮守府司令長官ニ電報シテ、此等諸船ノ出港ヲ中止セシメ、次テ三月一日吳鎮守府司令長官ニ向ヒ、福井丸、彌彦丸、米山丸及ヒ千代丸ハ旅順口第二次閉塞用ニ供スル爲メ、吳軍港ニ於テ內密ニ艤裝セシメラルヘキヲ以テ、先ツ岡山縣下犬島ニ回航セシメ、同地ニ於テ石材ヲ滿載スヘキ旨ヲ電訓シ、臨時建築部工務監海軍技師工學博士石黑五十二ヲシテ、之ニ關スル諸事打合セノ爲メ、大坂ヲ經テ吳ニ出張セシム、而テ今回ハ特別運送船ノ名稱ヲ廢シテ、更ニ前進根據地用運送船ト稱フルコトヽナセリ、

閉塞船ノ艤裝ハ最祕密ヲ要スルヲ以テ、可成世人ノ注意ヲ避ケンカ爲メ、最初犬島ヲ以テ石材搭載地ト撰定セシモ、種々調査ノ結果、同島ニテハ到底急速ナル需要ニ應スルノ見込ナキヨリ、遂ニ大坂ニ於テ築港用セメント、ブロツク」ヲ積載スルコトニ變更シ、大本營ヨリ軍令部參謀海軍少佐高木七太郎ヲ大坂ニ特派シテ、事業ヲ監督セシム、又吳鎮守府司令長官海軍中將柴山矢八ハ、前記電訓ニ接スルヤ、各船々長ニ至急大坂ヘ回航シテ、高木軍令部參謀ノ指揮ヲ受クヘキ旨ヲ傳達セリ、仍テ福井丸外三隻ノ運送船ハ逐次大坂ニ回航シテ、直ニ石材ノ積込ニ著手セシカ、同地ニ出張セル高木軍令部參謀ハ、訓令ニ依リ運送船艤裝ノ祕密ヲ保ツ爲メ、船員ノ上陸通信竝ニ外部トノ交通等一切ヲ禁止シ、石黑工務監ト共ニ晝夜事業ヲ督勵シ、積込ヲ終リタル船ハ、順次吳軍港ニ歸航セシメ、三月九日總テ積載ヲ完了セリ、而テ又此等運送船ハ一旦吳軍港ニ寄航シ、同地海軍工廠ニ於テ大砲ノ裝備（今回ノ閉塞船ハ聯合艦隊參謀長ヨリノ請求ニ依リ其ノ前甲板ニ一尹諸典機砲二門ヲ、ヘ突入ノ際敵ノ哨艇等ヲ驅逐スルノ用ニ供セリ）竝ニ閉塞ニ要スル諸般ノ設備ヲ整ヘ、工事落成次第各船逐次海州邑錨地ニ向ヒテ出發セリ、各船要目ノ大要左表ノ如シ、

船名	總噸數	排水量	實馬力	速力 最大	速力 普通	製造年月	製造價格	所有者	積込石材ノ重量	大阪入港日時 大阪出港日時	積載ニ要セシ時間
千代丸	二、七〇七	三、七七八	一、四〇〇	二二、五	一〇、〇	明治十八年九月	不詳	紺屋明石三郎	一、九五四噸	三月五日午後四時 三月七日午後四時	四十四時間

福井丸	二、九四三	四、000	一、100	一、100	一〇、0	明治十五年三月	一、一〇、000	敦賀右近權左衞門	一、四四三 噸	三月七日午前十時 三月八日午後二時	二十一時間半
米山丸	二、六九三	三、七四五	一、000	二、二、0	一〇、0	明治十六年一月	一00、000	浦賀板谷合名會社	二、四三三 噸	三月八日午前十一時 三月十日午後二時卅分	三十六時間
彌彦丸	二、六九三	四、000	一、000	不詳		明治二十一年一月	不詳	神戸同右	二、六三七 噸	三月六日午前十時 三月九日午前十時	六十八時間

備考 石材積込ノ荷役調表ハ附表ニ詳ナリ

爆發裝置ハ前回ト大差ナシト雖モ、今回ハ各船共ニ十六斤四分ノ一ノ綿火藥罐六個ヲ用ヒ、卽チ汽機室竝ニ汽罐室ノ側壁ニハ、其ノ船底ニ近ク二個ツヲ裝著シテ之ヲ主爆發裝置トシ、尙補助裝置トシテ、一個ツヽヲ前後兩檣ノ側方ニ於テ舷側ニ裝備シ、電纜ハ石材トノ摩擦或ハ敵彈ニ依リテ毀損スルヲ防クカ爲メ、小裝鎧電纜ヲ複線ニ使用シ、電鑰ハ後部上甲板ニ導キ、尙水線下ヨリ分電路ヲ出シテ之ヲ船艙內ニ收メ、主電纜切斷等ノ場合ニ際シ、應急用ニ供セリ、而テ發火電池ハ十電器電池二個ヲ後部船艙內稍上部ニ備ヘ、機關部員ノ退却ニ際シ、「キングストン」弁及ヒ弁函等ヲ破壞スルモ、直ニ電池ニ浸水スルノ憂ナカラシメ、又防水劃壁ノ鉸釘切斷及ヒ緩火索ヲ挿入セル六尹彈丸ノ使用等、前回ニ同シ、

第二目　閉塞隊員ノ編制

曩ニ第一回ノ閉塞充分ノ効ヲ奏セサリシヲ以テ、其ノ各指揮官以下隊員ハ遺憾極リナク、次回ノ成功ヲ期シツヽ、第二回閉塞ノ擧アルヲ待チシニ、三月十八日東鄕聯合艦隊司令長官ヨリ、第二次旅順口閉塞實行ノ爲メ、隊員募集ノ命アリタルヲ以テ、乃チ再其ノ擧ニ參與センコトヲ歎願シテ止マス、然レトモ同司令長官ハ閉塞隊ノ如キ事業ニ、屢同一人員ヲ用フルニ忍ヒス、唯士官以上ハ其ノ請願ノ極テ切ナルト、前回ノ經驗ニ因リ行動ニ利スル所大ナルヘキトヲ以テ、特ニ之ヲ許シ、下士卒ニ至リテハ、新ニ第一、第二艦隊ノ各戰隊ヨリ撰拔シタルモノヨリ編制セシカ、獨リ三笠撰出ノ二等兵曹林紋平ノミハ、其ノ決心牢トシテ拔ク可ラサルモノアルヲ以テ、終ニ其ノ心情ヲ察シ、再隊員中ニ編入セリ、而テ第一回閉塞ノ際ハ船體ノ操縱ヲ掌ル指揮官ヲ補助スル者ナク、若シ指揮官ニシテ死傷スル等ノ場合ニ於テハ、或ハ突入ノ好機ヲ逸スルノ虞アリタルカ故ニ、今回ハ指揮官附トシテ各船ニ將校一名ツヽヲ增員セリ、其ノ編制左ノ如シ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第二回閉塞隊編制表

第一閉塞隊(用船千代丸)

指揮官　海軍中佐　有馬良橘
指揮官附　海軍中尉　鳥崎保三
機關長　海軍大機關士　山賀代三

撰出艦	官等級	姓名	撰出艦	官等級	姓名
三笠	二等兵曹	林紋平	磐手	一等水兵	下田代納助
淺間	一等水兵	三上勘次郎	三笠	一等機關兵曹	佐藤末吉
初瀬	一等機關兵曹	藤山新吾	初瀬	三等機關兵曹	久永市之助
三笠	一等機關兵	阿部惣次	磐手	一等機關兵	奥村又次郎
千歲	同	川瀨信三郎	磐手	二等機關兵	有馬精一
千歲	二等機關兵	折戸直三郎	三笠	同	山岡惣一郎
新高	二等機關兵	臼井與作	對馬	同	神谷榮三郎
千早	同	石川吟造			

第二閉塞隊(用船福井丸)

指揮官　海軍少佐　廣瀨武夫
指揮官附　海軍上等兵曹　杉野孫七
機關長　海軍大機關士　栗田富太郎

撰出艦	官等級	姓名	撰出艦	官等級	姓名
敷島	一等兵曹	飯牟禮仲之進	朝日	二等信號兵曹	菅波政次
吾妻	一等水兵	平野一郎	敷島	二等機關兵曹	松下軍吉
朝日	三等機關兵曹	平野松三郎	朝日	一等機關兵	坂井主計
敷島	一等機關兵	中條政惟	吾妻	一等機關兵	石井左市
八雲	一等機關兵	小林吉太郎	八雲	二等機關兵	塚本達郎
吾妻	二等機關兵	沓澤皆藏	高千穗	二等機關兵	小池幸三郎
朝日	二等機關兵	山本半二	敷島	二等機關兵	楠鐵藏
龍田	二等機關兵	井畠小次郎			

第三閉塞隊(用船彌彦丸)

指揮官　海軍大尉　齋藤七五郎
指揮官附　海軍中尉　森初次
機關長　海軍中機關士　大石親德(但大石中機關士ハ後負傷シタルヲ以テ大機關士小川充之ニ代レリ)

撰出艦	官等級	姓名	撰出艦	官等級	姓名
八島	一等兵曹	村上卯吉	初瀨	一等水兵	德田宗一郎
出雲	二等水兵	杉本三藏	初瀨	三等機關兵曹	圓師熊太郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

八島	三等機關兵曹	伊藤三次	
出雲	一等機關兵	木下初藏	淺間 一等機關兵 小西萬吉
八島	一等機關兵	瀨崎繁三	八島 二等機關兵 富田六治郎
出雲	二等機關兵	古賀繁雄	淺間 二等機關兵 平松與太郎
吉野	二等機關兵	近本太吉	

第四閉塞隊(用船米山丸)

指揮官 海軍大尉 正木義太

指揮官附 海軍中尉 島田初藏

機關長 海軍少機關士 杉 敬 人

撰出艦	官等級	姓名	撰出艦	官等級	姓名
高砂	二等兵曹	鹽谷已之資	常磐	二等信號兵曹	二名鄕一
富士	三等兵曹	赤松虎太郎	常磐	二等機關兵曹	鈴川太郎右衞門
富士	二等機關兵曹	土屋五郎吉	富士	一等機關兵	河野幸次郎
常磐	一等機關兵	溝淵平太郎	常磐	一等機關兵	溫品逸三
笠置	一等機關兵	後藤茂美	高砂	一等機關兵	福島熊喜
富士	二等機關兵	中村儀三郎	笠置	二等機關兵	林豐一
浪速	二等機關兵	芳賀力藏			

而テ閉塞隊員ハ、二十日各其ノ本艦ヲ辭シ、編制ニ從ヒテ閉塞船ニ移乘シ、爆發裝置其ノ他ノ準備ヲ完整シ、二十二日登舷禮式ヲ以テ在泊艦艇ニ送ラレツヽ、海州邑ヲ發シテ大青島東側錨地ニ回航シ、固有船員ヲ佐倉丸ニ移シ、次テ二十三日第五次攻擊ヲ了リテ、同所ニ歸來セル第一戰隊以下ニ合シ、共ニ小青島ノ南方約十海里ナル第五集合地點ニ回航セリ、

第二節　行動計畫及ヒ發動

旅順口第二回閉塞ノ準備完成スルヤ、東鄕聯合艦隊司令長官ハ、二十三日小青島ノ南方約十海里ナル第五集合地點ニ於テ、第二艦隊司令長官以下各司令官、艦長、司令ヲ旗艦三笠ニ召集シテ軍議ヲ凝シ、卽日左ノ命令ヲ發セリ、

一、昨二十二日、威力偵察ノ結果敵ノ主力カ尙悉ク旅順ニ在リテ動カサルコト確實ナリ

二、聯合艦隊ハ旅順港口ヲ閉塞シテ池水ト化シ敵ノ大部ヲ無能ナラシメ且其ノ根據ヲ失ハシムルヲ唯一ノ目的トシテ再出動セントス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、第一、第三戰隊（常磐淺間ヲ加フ）第一第二第三驅逐隊及ヒ第九艇隊（真鶴鵲ヲ加フ）ハ閉塞船隊ヲ掩護シ明二十四日午前六時三十分出發別紙航路圖ニ準シテ行動ス（編者曰ク別紙航路圖ハ別冊附圖ニ掲ク）

四、閉塞船隊及ヒ其ノ衛艇左ノ如シ

番號	閉塞船	指揮官	衛艇	番號	閉塞船	指揮官	衛艇
一	千代丸	有馬中佐	雁	三	彌彦丸	齋藤大尉	鵲
二	福井丸	廣瀨少佐	燕	四	米山丸	正木大尉	真鶴

五、閉塞ノ計畫實施ヲ有馬中佐ニ一任ス

六、明二十四日午後七時迄閉塞船隊及ヒ其ノ掩護部隊ハ左ノ序列ヲ以テ航進ス

第三戰隊 ― 三千米突 ― 第一戰隊 ― 八百米突 ― 閉塞船隊 ― 第九艇隊 ― 第二驅逐隊 ― 第三驅逐隊 ― 第一驅逐隊

同日午後七時各隊分離後閉塞船隊及ヒ掩護部隊ノ序列左ノ如シ

第二驅逐隊 ― 間隔適宜 ― 第三驅逐隊 ― 三千米突 ― 第一驅逐隊 ― 閉塞船隊 ― 第九艇隊

七、明二十四日午後七時以後各部隊ハ左ノ如ク行動スヘシ

（イ）第二驅逐隊ハ速力ヲ增加シテ前進シ若シ圓島附近ニ敵ノ偵察艦等ヲ發見スルトキハ極力追尾シテ轟沈スルヲ努メ二十五日午前三時老鐵山ノ南方ニ至リ該方面ヲ警戒シテ閉塞事業ヲ容易ナラシムヘシ但閉塞船隊ノ闖入セサル前敵眼ニ觸レサルヲ要ス

（ロ）第一第三驅逐隊ハ旅順口正南迄圖示ノ位置ヲ占メ閉塞船隊ヲ掩護シ敵ノ驅逐艦等ノ來襲スルトキハ極力攻擊シテ閉塞船ヲ護衛スヘシ

又港外ニ至レハ閉塞船ノ航路ヲ避ケテ其ノ後方ニ回リ第一驅逐隊ハ鮮生角ノ正南三浬第三驅逐隊ハ港口ノ正南四浬ニ占位シ天明迄留リテ閉塞隊員ノ收容ニ努ムヘシ若シ閉塞船ノ前進ニ際シ敵ノ砲擊アルトキハ直ニ探海燈ヲ點シ空砲ヲ連發シ出來得ル丈敵ヲ惑亂

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

牽制スヘシ

(ハ)第九艇隊ノ蒼鷹鴿ハ閉塞船一番ノ左側ニアリテ港口ヨリ約一浬迄前進シ若シ敵艦ヲ發見セハ突進轟沈スヘシ又各衞艇ハ其ノ所屬閉塞船左側適當ノ距離ニ占位シ港外迄隨航シ港外ニテ閉塞船隊ノ後方ニ集合シ港口ヨリ約二浬ノ處ニ進ミ極力閉塞隊員ノ收容ニ努ムヘシ

(ニ)各驅逐隊及ヒ艇隊ハ味方識別暗號ヲ以テ敵味方ノ識別ニ注意スルノ外尙兩「ヤーダーム」ニ四旒以上ノ信號旗ヲ連揭シ彼我ヲ識別スヘシ

(ホ)第三戰隊(淺間常磐ヲ加フ)ハ圖示ノ航路ヲ迂回シ二十五日午前六時ヨリ速力十六節ニテ旅順港外ニ直進シ我カ驅逐隊艇隊ノ尙港外ニ殘レルモノヲ掩護シテ收容ニ洩レタル閉塞隊員ノ收容ニ努メ且港口閉塞ノ成否ヲ見屆クヘシ

(ヘ)第一戰隊ハ圖示ノ航路ヲ迂回シ二十五日午前八時遇岩ニ達シ敵主力ノ出動ニ對シ全隊ヲ掩護ス

(ト)各部隊其ノ任務ヲ終レハ一度遇岩ノ南方約五浬ノ地點ニ集合シ後命ヲ待ツヘシ

八、第二戰隊(常磐淺間ヲ欠ク)第四戰隊及ヒ第四第五驅逐隊ハ第二集合地點(編者曰ク海州邑ナリ)ニ留リ即刻出航ノ準備ヲ整ヘ待命スヘシ第五集合地點ニ哨艦ヲ配備スルコト元ノ如シ又第五集合地點ノ正西四十浬ニ一艦ヲ配シ無線電信ノ連絡ヲ取ラシムヘシ

九、斷シテ行ヘハ鬼神モ之ヲ避ク而モ大膽ハ最安全ナリ閉塞隊ハ固ヨリ之カ掩護收容ニ從事スル各部隊ハ皆其ノ心ヲ一ニシ天佑ヲ確信スルト共ニ各其ノ擔任ノ任務ニ就キテ全力ヲ竭シ此ノ大成功ヲ遂ケサルヘカラス

(聯隊機密第二四九號)

聯合艦隊ハ二十四日午前六時豫定ノ行動ヲ開始シ、第三戰隊ハ既ニ小青島ノ南方約十海里ナル第五集合地點ヲ出港シテ、大青島ノ水道ヲ通過シ、第一戰隊モ亦將ニ拔錨セントスル際、濃霧忽焉トシテ來襲シ、四顧冥濛水陸ヲ分

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

タス、加フルニ昨夜以來北西ノ風强吹シテ止マス、波浪高大ニシテ到底驅逐艦水雷艇ノ航海ニ適セス、仍テ東鄕聯合艦隊司令長官ハ出動ヲ中止シ、第三戰隊ニ電報シテ元ノ錨地ニ還ラシメ、各部隊ニ豫定行動延期ヲ令セリ、然レトモ其ノ錨地タル南北宏開セル爲メ、潮流强クシテ澎濤進入シ、小艇ノ如キハ横波ヲ受ケテ舷側屢波ヲ掬フニ至リ、諸作業ニ便ナラサルカ故、午後一時各隊ニ令シテ逐次錨地ヲ巡威島外荒串池ノ東方ナル第四集合地點ニ移サシメ、以テ天候ノ回復ヲ待チシニ、翌二十五日ニ至リ風力次第ニ衰ヘシト雖モ、濃霧時々來襲シテ陰晴常ナラス、東鄕聯合艦隊司令長官ハ二十六日午前三時ヲ以テ行動開始期ト定メタリシカ、閉塞船米山丸ハ其ノ速力僅ニ六海里ニ過キサリシヲ以テ、龍田及ヒ第五艇隊ニ命スルニ、閉塞船隊ヲ掩護シテ、二十五日午後先發スヘキヲ以テシ、又春日丸ハ二十六日午後出發シテ、翌朝午前八時圓島附近ニ於テ、本隊ニ合スヘキヲ訓令セリ、是ニ於テ閉塞船四隻ハ、龍田及ヒ第九艇隊ニ掩護セラレテ、午後六時十五分第四集合地點ヲ出發シ、自餘ノ諸隊ハ二十六日午前二時三十分行動ヲ起シ、第三戰隊ヲ先頭トシ

第一戰隊、第一、第二、第三驅逐隊ノ順序ヲ以テ逐次出港セリ、八時三十分小青島ノ北端ヲ約北東十海里ニ見テ北六十度西ニ定針シ、午後一時三十分閉塞船隊ニ追及シテ豫定ノ序列ヲ制リ、六時四十二分圓島ノ南東二十五海里ナル豫定地點ニ達シ、第一戰隊ハ右十六點、第三戰隊ハ左十六點ニ各變針シ、閉塞船隊ヲ中間ニ挾ミ、登舷禮式ヲ以テ交、萬歲ヲ三唱シツヽ、其ノ壯行ヲ送リ、各隊豫定ノ針路ニ就ク、

第三節　第二回閉塞行動

第一目　閉塞船隊ノ突入

閉塞船隊ハ、二十六日午後六時三十分戰隊ト分離シテヨリ、驅逐隊、艇隊ニ掩護セラレテ、二十七日午前二時老鐵山ノ南方ニ達シ、同二十分千代丸ヲ先頭トシテ、福井丸、彌彥丸、米山丸ノ順序ヲ以テ單縱陣ヲ制リ、黃金山海岸ノ探海燈ヲ北二分ノ一東ニ望ミ、港口ニ向ヒテ邁進セリ、此ノ夜風靜ニ波平ニシテ、淡霧水上ニ横ハリ、月色暗クシテ唯三基ノ探海燈斷エス旋轉シテ索敵ニ力

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ムルアルノミ、三時月雲間ニ沒シ、烟霧漸ク密ニシテ、眼界次第ニ狹カラントス、閉塞隊ハ此ノ好機ニ乘シ、汽機ノ全力ヲ盡シテ猛進シ、港口ヲ距ルコト約二海里ノ位置ニ達セシ頃、同三十分先頭船千代丸先ツ敵ノ探照スル所トナリシカ、敵ハ周章其ノ砲火ヲ開キ、海岸諸砲臺及ヒ哨艦艇ヨリ亂射猛擊スル砲彈ハ恰モ雨霰ノ如ク、強力ナル探海燈ハ正面左右ヨリ交射シテ、前方ヲ明視スル能ハス、然レトモ閉塞船ノ各指揮官ハ、愈猛進シ、一番船千代丸ハ初メ、黄金山ノ探海燈ヲ目的トシテ進ミ、距離約三海里ノ位置ヨリ港口燈臺ニ向ヒテ變針シ、更ニ港口ヲ望ミテ右折セシカ、黄金山探海燈ノ正確ナル位置ヲ知ル能ハス、且他ノ探海燈ニ眩惑セラレテ、明確ニ港口ヲ認ムル能ハス、遂ニ水道ノ入口ナル黄金山南方海岸ニ近ク艦首ヲ陸岸ニ向ケテ投錨爆沈セリ、二番船福井丸ハ千代丸ノ爆沈スルヲ見ルヤ、其ノ左側ニ出テ、將ニ投錨セントスル際、敵ノ驅逐艦ヨリ發射セシ魚形水雷一發命中シ、千代丸ト竝ヒテ沈沒シ、三番船彌彦丸ハ福井丸ノ左ニ出テ、之ト相竝ヒテ黄金山ニ面シテ投錨爆沈セリ、又四番船米山丸ハ速力遲緩ナリシ爲メ、稍後レテ彌彦丸ニ續行シ、

漸ク港口ニ近ツキシ頃、敵ノ驅逐艦一隻突然其ノ針路ノ前方ヲ横過セントセシカ爲メ、同船ハ敵ノ艦尾ヲ摩シツヽ、千代丸ノ右側ニ接シテ闖入シ、彌彦丸ノ左方ニ尚廣キ航路ヲ殘セルヲ見テ、直ニ左舷ニ回頭シ、福井丸ノ船首ヲ回リテ、之ト彌彦丸トノ中間ヲ過キ、水道ノ中央ニ出テヽ、投錨シ、汽機ノ後退ヲ命セシモ、容易ク運轉セス、船ハ惰力ノ爲メ漸ク老虎尾ノ陸岸ニ接近セントスルヲ以テ、更ニ他舷錨ヲ投シ、爆發センカ爲メ、電鑰ヲ壓スルト殆ト同時ニ、敵ノ魚形水雷ト思ハルヽモノ一發ヲ受ケ、燈臺直下ニ於テ船首ヲ約西方ニ向ケ、前回ノ閉塞船報國丸ト略直角ニ港口ヲ横切リテ沈沒セリ、時ニ三時四十分ニシテ、始テ敵彈ヲ受ケテヨリ、是ニ至ル迄二十分間タリ、斯クテ彌彦丸ト米山丸トノ間ニハ、尚廣キ空隙ヲ殘シ、水道ハ依然トシテ敵艦隊ノ航通ヲ許シ、第二回閉塞モ亦遂ニ完全ナル効果ヲ收ムルニ至ラス、

閉塞船ノ已ニ爆沈ヲ終ルヤ、其ノ隊員ハ各端舟ニ乘シテ本船ヲ退去シ、收容艇ニ會センカ爲メ沖合ニ出テシカ、敵ノ砲火ハ此等ノ端舟ニ移リ、海岸ヨリハ機砲小銃等ヲ亂發シ、哨艦ハ探海燈ヲ點シテ射照追擊セリ、而テ福井丸指

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

揮官海軍少佐廣瀨武夫ハ、既ニ福井丸ヲ爆沈シタル後、乘員ヲ端舟ニ移乘セシメ、人員ヲ點呼セシニ、指揮官附タリシ海軍上等兵曹杉野孫七ノ在ラサルヲ知リ、自ラ船内ヲ搜索スルコト三度ニ及ヒシモ、遂ニ發見スル能ハス、時ニ船體漸次沈沒シテ、今ヤ海水上甲板ニ達スルニ及ヒタルヲ以テ、已ムヲ得ス端舟ヲ本船ヨリ離シテ歸路ニ就キシカ、敵哨艦ノ爲メニ發見セラレ、其ノ探照ト猛射トヲ受ケ、忽チ一彈飛ヒ來リテ同少佐ノ身體ヲ舟外ニ奪ヒ去リ、僅ニ一片ノ肉塊ヲ留メ、二等機關兵小池幸三郎モ亦敵彈ニ殪レ、海軍大機關士栗田富太郎以下下士卒四名負傷シ、又米山丸乘員ハ、指揮官附海軍中尉島田初藏爆沈ニ先タチテ重傷ヲ負ヒ、指揮官海軍大尉正木義太以下下士卒四名モ亦歸途輕傷ヲ負フニ至レリ、

第二目　掩護收容隊ノ行動

閉塞戰隊ヲ掩護シ、且其ノ乘員ヲ收容スヘキ任務ヲ有スル第一、第二、第三驅逐隊及ヒ第九艇隊（真鶴鶺ヲ加フ）ハ、閉塞船隊ヲ掩護シテ旅順港外ニ達シ、驅逐隊ハ各其ノ豫定ノ位置ニ就キ、第九艇隊ハ閉塞船ノ衞艇トシテ、之カ右側ニ竝ヒテ共ニ港口ニ進ミ、同隊司令海軍中佐矢島純吉ハ蒼鷹、燕ノ二艇ヲ率ヰテ閉塞船ト共ニ突進シ、他ノ四艇ハ港口ノ南方約二海里ノ位置ニ留メテ、收容ニ從事セシム、而テ蒼鷹及ヒ燕ハ港口ヲ距ルコト約一海里ノ位置迄進ミテ索敵シタルモ、敵艦ヲ認メス、仍テ其ノ位置ニ在リテ端舟ノ來ルヲ待チシカ、二十七日午前四時頃敵ノ一驅逐艦檣頭ニテ發光信號ヲ爲シツヽ、港口ノ方ヨリ蒼鷹ノ艇尾ニ向ヒテ進航シ來レリ、此ノ時蒼鷹ハ艇首ヲ約西方ニ、燕ハ其ノ後方二百米突ニアリテ、艇首ヲ北西ニ保チテ停止セシカ、敵ハ距離約二百米突ニ近ツクヤ、蒼鷹ニ對シテ發砲ヲ始メ、其ノ艇尾ヲ通過シテ南方ニ航下セリ、初メ蒼鷹ハ我カ右舷ヲ以テ敵ト反航シテ攻擊セント欲シ、右舷ニ回頭ヲ試ミシモ、未タ半ナラスシテ、敵ハ已ニ約五十米突ノ近距離ニ肉薄シ來リタルヲ以テ、更ニ左舷ニ轉舵シテ敵ヲ猛擊セリ、又燕ハ敵ノ驅逐艦カ蒼鷹ト自艇トノ中間ヲ南方ニ航過セントシテ、專ラ蒼鷹ノミヲ砲擊シ、燕ノアルヲ知ラサルモノヽ如クナルヲ認メシモ、同艇ハ前方ニ蒼鷹ノ在ルヲ慮リテ未タ砲火ヲ開カス、而テ此ノ際右轉スレハ敵ト反航シテ之ニ遠サカルノ憂ア

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

リ、又左轉スレハ敵ト衝突スルノ慮リアリ、仍テ已ムヲ得ス停止ノ儘暫ク敵ノ行動ニ注意セシニ、彼ハ獨リ蒼鷹ト砲火ヲ交ヘツヽ航過セシヲ以テ、燕ハ直ニ左舷ニ回頭シテ敵ヲ追擊シ、魚形水雷一發ヲ放チ、且艇砲ヲ以テ蒼鷹ト共ニ之ヲ夾擊セシカハ、敵ハ忽チ煙突「ハッチ」等ヨリ盛ニ蒸氣ヲ噴出シ、進退ノ自由ヲ失ヒタルモノヽ如ク、二艇ハ益之ヲ攻擊セルウチ、一時敵影ヲ見失フニ至リシカ、其ノ後該驅逐艦ハ嶗嶉嘴ト黃金山ノ中間ニ於テ海岸ニ擱坐シ、敵砲臺ハ之ニ對シテ味方打ヲナセルヲ目擊セリ、蓋該驅逐艦ハ「シーリヌイ」ニシテ、此ノ戰ノ爲メ、其ノ汽罐ヲ擊破セラレ、乘組機關士一名卒六名戰死シ、艦長以下卒十二名負傷セリト云フ、而テ我カ兩艇ハ一ノ損害ヲ蒙ラス、是ノ如ク蒼鷹及ヒ燕ハ敵驅逐艦ヲ擊破シタル後、尙其ノ位置ニ止リテ閉塞隊員ノ收容ニ從事シ、午前四時二十分燕ハ千代丸及ヒ彌彥丸ノ乘員ヲ收容シテ沖合ニ退キ蒼鷹ハ獨リ尙停止セシカ、遂ニ敵探海燈ノ爲メニ發見セラレ、集彈ヲ受クルコト二回ニ及ヒ、外方收容線ニ退却セリ、又他ノ四艇ハ豫定ノ位置ニ留リ、收容列ヲ張リテ端舟ノ至ルヲ待チシカ、三時四十五分眞鶴ハ敵ノ驅逐艦ラシキモノ一隻、蒸氣ヲ噴キツヽ沖合ニ向フヲ發見シ、之ヲ砲擊セシモ、彼應セスシテ南方ニ急行セリ、五時頃ヨリ敵ノ砲火ハ次第ニ收容艇ニ移リ、其ノ彈著頗ル適良ナルヲ以テ、少シク退却シテ老鐵山項ヲ正西ニ見ル線上ニ到リ、同五十分鵲ハ海軍少機關士杉政人ノ指揮セル米山丸ノ端舟ヲ發見シテ之ヲ收容ス、又雁ハ他艇ト共ニ收容ニ從事中、罐管ニ漏洩ヲ生シ、蒸氣煙突ヨリ噴出スルニ至リシヲ以テ、漸次港口ノ南方三海里ノ位置ニ退キ、六時十分正木大尉等以下米山丸乘員ノ半數ヲ收容シテ沖合ニ出ツ、是ニ於テ矢島司令ハ各艇ノ報告ヲ綜合シ、福井丸乘員ノ尙收容ニ漏ルヽモノアルヲ知リ、蒼鷹、鴿、眞鶴ヲ率ヰテ、同四十分搜索ノ爲メ老鐵山ノ南西方ニ向ヒ、他ノ諸艇ヲシテ戰隊所在地ニ至リテ、收容人員ヲ大艦ニ移サシム、

第二驅逐隊ハ閉塞船隊ノ前衞トシテ、二十六日午後六時三十分戰隊ト分レテヨリ、速力ヲ增加シテ圓島附近ニ至リ、敵ヲ探リシモ發見セス、仍テ老鐵山ノ南方ニ進ミ、閉塞船ニ對シ、該方面ヲ警戒シ、又第一、第三驅逐隊ハ豫定ノ位置ニ就キテ閉塞船ヲ掩護シツヽ前進シ、二十七日午前三時頃旅順港外ニ達

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シ、第一驅逐隊ハ鮮生角ノ南方三海里、第三驅逐隊ハ港口ノ南方四五海里ノ位置ニ、各漂泊シテ警戒セシカ、同二十分頃港口兩岸ノ諸砲臺ヨリ閉塞船ニ對シ猛烈ナル砲擊ヲ開始セシヲ以テ、第一驅逐隊ハ直ニ探海燈ヲ點シ、空砲ヲ發スル等敵ヲ惑亂牽制スルニ努メ、第三驅逐隊モ亦其ノ哨區ニアリテ牽制運動ヲナシツヽ、閉塞隊員ノ收容ニ從事セシカ、六時三十分第一驅逐隊ハ南方ニ漕キ來ル一隻ノ端舟ヲ發見シ、霞之ヲ收容ス、是卽チ第九艇隊ノ收容ニ洩レタル福井丸乘員ニシテ、霞ハ收容セシ負傷者治療ノ爲メ列ヲ離レテ第一戰隊ニ向ヒ、他ノ三艦ハ閉塞ノ成果ヲ偵察センカ爲メ、再港口ニ向フ、此ノ夜掩護收容ニ從事セシ各隊ハ、屢敵ノ猛射ヲ受ケシモ一ノ損害ヲ蒙ラス、閉塞隊員全部ヲ收容シテ、午前九時頃迄ニ各隊逐次第一戰隊ニ合セリ、

第三目　戰隊ノ行動

第一戰隊及ヒ第三戰隊ハ、閉塞船隊ノ行ヲ送リテヨリ、兩隊相分レテ各豫定ノ針路ヲ執リ、第三戰隊ハ二十七日午前六時三十分艦首ニ老鐵山ヲ發見シ、速力ヲ十八海里ニ增シテ、旅順港外ヲ横過ス、此ノ時敵艦「バヤーン」「ノーウヰク」港外ニ在リテ、我カ驅逐艦、水雷艇ニ對シテ頻ニ發砲シ、陸上砲臺モ亦時ニ砲擊スルヲ認メシカ、我カ驅逐艦、水雷艇ノ總テ無事ナルヲ見テ、司令官海軍少將出羽重遠ハ之ヲ三笠ニ電報セリ、已ニシテ水雷艇雁、鵲近ツキ來リ、收容セル閉塞隊員中負傷者アリト信號シタルヲ以テ、同司令官ハ淺間ヲ列外ニ出シ、閉塞隊員ヲ收容セシム、七時四十六分各官ニ令シテ戰鬪部署ニ就カシメ、原速ヲ十海里ニ減ス、此ノ時「アスコリド」港外ニ出テヽ東方ニ航シ、「バヤーン」「ノーウヰク」ハ西方ニ向ヒ、時々我ニ對シテ發砲セシモ、彈著半ニタモ達セス、八時五分ヨリ同二十五分迄ニ「ポベーダ」「ポルターワ」「ペトロパウロウスク」及ヒ「ヂイヤーナ」相次テ出港シ、「ペトロパウロウスク」ヲ先頭トシ「ポルターワ」「ポベーダ」「アスコリド」「バヤーン」「ヂイヤーナ」「ノーウヰク」ノ順序ヲ以テ單縱陣ヲ制リ、南西方ニ運動セリ、是ヨリ先キ東鄕聯合艦隊司令長官ハ、第一戰隊ヲ率ヰ、午前六時圓島ノ南方ニ達シ、速力ヲ增シテ尙西方ニ進ミシカ、八時過キヨリ驅逐隊、艇隊逐次來會シ、閉塞ノ狀況ヲ報告ス、仍テ漂泊シテ閉塞隊員ヲ收容シ、第九艇隊ハ春日丸ト共ニ、第二集合地點ニ歸還セシム、九時頃「ペトロ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

パウロウスク」外六隻ノ敵艦港外ニ現レ、港口閉塞ノ成功セサリシヲ知リ得タリ、而テ敵ハ敢テ遠ク出動ノ形勢ナキヲ以テ、第三戰隊ヲ合シテ南方ニ退キ、正午圓島ノ南約五海里ニ達シ、第三戰隊ヲシテ第一戰隊ノ後方二海里ニ位置セシメ、海州邑ナル第二集合地點ニ向ヒシカ、午後四時四十分無線電信ニ感應アリ、或ハ敵艦ノ追尾シ來リタルヤノ疑アリシカ故ニ、出羽司令官ニ訓令スルニ、第三戰隊ハ第一戰隊ノ後方二十海里ニ位置シテ後方ヲ警戒シ、且時宜ニ依リ第一驅逐隊ヲシテ敵ヲ逆襲セシムヘキヲ以テセシモ、敵遂ニ來ラス、二十八日午前六時二十五分青島ノ南方ニ於テ、第三戰隊ト會合シ、十一時各隊逐次第二集合地點ニ入港シ、行動ノ顛末ヲ大本營ニ報告セリ、

二十九日聯合艦隊司令長官東鄕平八郎ニ、左ノ勅語ヲ賜フ、

聯合艦隊ハ再度旅順港口ヲ閉塞セントシタル壯擧ヲ聞ク朕深ク其事ニ與リシ將校下士卒ノ忠烈ヲ嘉ス

東鄕司令長官ハ、三十日右勅語ニ對シ、左ノ奉答文ヲ捧ク、

第二次旅順口閉塞ノ擧ニ對シ優渥ナル　勅語ヲ賜ハリ獨リ臣等ノ感激ニ堪ヘサルノミナラス之ニ戰死セル將卒ノ忠魂モ永ク戰地ニ止リテ皇軍ヲ庇護スヘキヲ覺ユ臣等尙ホ倍〻勇奮

聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス

右謹ンテ奏ス

三十日皇太子殿下ヨリ、聯合艦隊司令長官東鄕平八郎ニ、左ノ令旨ヲ賜フ、

旅順口閉塞ノ再擧ニ方リ其將卒ノ倍マス勇敢ニシテ沈著ナル動作ヲ欣尙ス

東鄕司令長官ハ、三十一日右令旨ニ對シ、左ノ如ク奉答セリ、

第二次旅順口閉塞ノ擧ニ就キ

令旨ヲ賜ハリ一同感激ニ堪ヘス尙ホ倍〻勇奮以テ

令旨ニ副ハンコトヲ期ス一同ニ代ハリ謹ンテ奉答ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/